

(法第28条第1項)

2018年度の事業報告書

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

1 事業の成果

①の事業では、千葉県・茨城県・福井県・静岡県・山梨県・船橋市の6自治体の保健所から、犬634頭、猫810頭の合計1,444頭を引き取り保護した。また飼育環境を改善するために施設の拡張およびレイアウト変更等を実施した。

②の事業では犬575頭、猫723頭の合計1,298頭を新しい飼い主に譲渡した。飼育管理効率の指標である保護から譲渡までの平均滞在日数は、犬35日、猫97日であった。また保護後の死亡率は犬2%、猫8%であった。また譲渡した犬のうち、生後半年以上の少年犬および成犬は67頭、生後1年以上の成猫は41頭であった。 ※本年度以前に保護した動物を含む。

③の事業では、発信する情報の見直しおよび、スマートフォンの普及にあわせたページの改修を実施した。なお、幼齢不妊手術に関するホームページの訪問者数はのべ約1万9千人、飼育やしつけに関するホームページの訪問者数はのべ約19万2千人であった。

④の事業では①で保護した犬598頭、猫734頭と、外来の猫135頭の合計1,467頭に不妊手術を実施した。 ※本年度以前に保護した動物を含む。

⑤の事業では、発信する情報の見直しおよび、スマートフォンの普及にあわせたページの改修を実施した。なお、全事業の合計ホームページ訪問者数はのべ約423万人であった。

⑥の事業では、新規事業開拓のためのニーズの調査、分析等を実施した。

⑦の事業では、損保代理店として、ウェブサイトを通じた保険の販売、情報提供などを実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
①行政施設で殺処分される犬猫を引き取り保護・飼育する施設(アニマルシェルター)を運営する事業	保健所や愛護センターなどの行政施設で殺処分直前の犬猫を施設に保護して、譲渡のための健康管理やしつけ等を行う。 また、譲渡が困難な犬猫については、施設で生涯飼育する。	随時	法人事務所	11名	千葉県、茨城県、福井県、静岡県、山梨県、船橋市の6自治体。

②行政施設から引き取った犬猫に不妊手術を施し、新しい飼育者へ譲渡する事業	前記事業で保護した犬猫たちに不妊手術を施し、新しい飼い主に譲渡する。	随時	法人事務所、東京都、神奈川県	9名	犬猫の飼育希望者のべ1,189家族。
③幼齢避妊去勢手術の普及と犬猫の適正な飼育を啓発する事業	団体ホームページで幼齢不妊手術についての情報提供や啓発を行う。	随時	法人事務所	1名	不特定多数のホームページ訪問者のべ約21万1千人。
④幼齢避妊去勢手術を主たる目的とした動物病院事業	団体が保護中の犬猫の不妊手術および、保護団体や個人が保護する犬猫を対象に、幼齢不妊手術外来を提供する動物病院を運営する。	随時	法人事務所 附属の動物病院	5名	犬猫合計1,467頭に不妊手術を実施。
⑤この法人の特定非営利活動に係る事業に関する情報提供・サービス事業	主にインターネットを通じて、前記事業すべてに対する情報発信を行う。	随時	法人事務所	2名	不特定多数のホームページ訪問者のべ約423万人。※③の事業を含む
⑥その他この法人の目的の達成のために必要な事業	新規事業を模索し、開拓し、立ち上げるために必要な調査・研究・準備等を行う。	随時	全国	1名	不特定多数

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数
⑥損害保険代理業	事業を通して飼い主と動物にとってより良い生活の助けとなる保険代理業を実施する。	随時	法人事務所	1名

以上

2019年5月19日

NPO 法人犬と猫のためのライフポート

2018年度 活動報告

いつも当団体活動をご支援くださり誠にありがとうございます。
2018年度の活動報告をさせていただきます。

<犬と猫の保護と譲渡について>

今年度は年間の譲渡目標を犬 500 頭、猫 800 頭の合計 1300 頭としておりました。またこれらを実現するための目安として、譲渡までの滞在日数と死亡率、保健所からの受入数目標を立てていました。

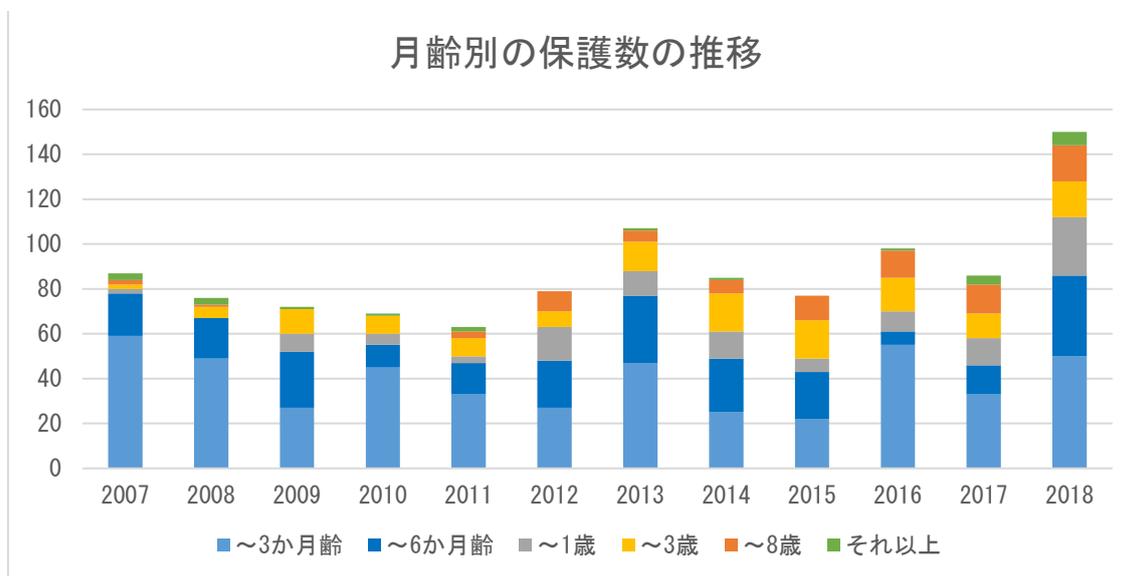
目標	受入数	譲渡数（うち成犬・成猫）	滞在日数	死亡率
犬	480 頭	500 頭（20 頭）	30 日以下	5%以下
猫	890 頭	800 頭（20 頭）	60 日以下	10%以下
合計	1,370 頭	1,300 頭		

猫の譲渡数は目標に及ばなかったものの犬で目標を上回り、結果として犬猫合計 1298 頭を譲渡することができました。惜しくも目標には届かなかったものの、一定の成果を残すことができました。

犬	2016 年度	2017 年度	2018 年度
受入	557	460	634
譲渡	531	476	575
死亡	3	3	12
死亡率	1%	1%	2%
滞在日数	32 日	28 日	35 日

犬は受入・譲渡ともに目標を上回るペースで順調に活動することができました。また譲渡のうち 67 頭は少年犬や成犬で、こちらも一定の成果を残すことができました。

一方で、ここ数年は少年犬・成犬でも怖がりな子の比率が増えており、譲渡の難易度が上がっています。今後も大きな課題として残るものと思われます。



※あくまで各年度末時点での瞬間値ですが、保護数のピークが少年犬・成犬によって上乗せされている傾向がグラフからも読み取れます。

猫	2016年度	2017年度	2018年度
受入	654	822	810
譲渡	616	716	723
死亡	37	87	64
死亡率	6%	11%	8%
滞在日数	66日	85日	97日

一年の中盤、夏場の譲渡で苦戦しましたが、結果として前年度と同程度の保護と譲渡を行うことができました。残念ながら目標の800頭の譲渡を達成することはできませんでしたが、飼育管理は大幅に改善することができましたし、成猫も41頭を譲渡することができましたので来年度の活動に活かしたい考えです。

譲渡に苦戦した時期があったのは様々な要因が考えられますが、大きな理由の一つは保護活動が普及したことで猫をもらえる場所が当団体以外にも増えたことです。

もちろんそのことはとても良いことです。当団体もこの活動全体の底上げとなるよう、より良い活動を行って参ります。

<犬のマイクロチップ全頭導入について>

2017年4月に開始したマイクロチップ導入から二年が経ち活用は順調に進んでいます。脱走事故後にマイクロチップの効果で早々に家に帰れた事例もありました。もちろん事故を起こさないのが一番ですが、今後は飼育管理の標準として実施するとともに、2年間で得たノウハウを譲渡して発信していく予定です。

<外来不妊手術について>

年度目標は130件の外来不妊手術を実施することでしたが無事に135頭を実施することができました。引き続き地域で活動する方の力になれるように実施いたします。

<施設の増改築と環境改善について>

2017年度の猫の飼育スペースの拡充に続き、2018年度は主に犬の環境改善を進めることができました。具体的には犬舎の新設およびリニューアルを行いました。また後述する温度管理システムの導入を実施しました。よりよい環境で面会していただけるよう、また何より動物たちが安全に快適に暮らせるように引き続き進めて参ります。

<幹部職員の募集について>

本年度一名を採用し活躍してもらっています。私たちとしても初の試みであり、幹部として本格的に活躍するのはまだ先になりますが、今後も能力とやる気のある人材を積極的に活用していきたいと考えています。

<人員の確保と現場組織の改変について>

現場組織の改変は定着し一定のスタイルが完成しつつあります。また今年度は法令の再チェックを行い、専門家の指導も受けてスタッフの待遇改善を行いました。まだまだボランティアというイメージの強いこの活動ですが、創業以来の理念の一つである「仕事として責任を持ってあたることで結果を出す」ことをしっかりと行って参ります。

<ボランティアの活用について>

例年通り多くのミルクボランティアさんにご協力いただき、赤ちゃん犬猫を助けるチャンスを増やすことができました。一方で成犬のお世話関係のボランティアは咬傷事故などのリスクを十分に減らすことができないと判断したため実施にいたっていません。引き続きよりよいかたちを模索いたします。

<その他の活動について>

事業目標に織り込んだその他の計画である、コンテンツの充実、ペット保険代理業、新規事業開拓については一步一步進めているものの、具体的なお報告が出来る段階までには至っていません。引き続き推し進めて参ります。

<熱中症による犬の死亡事故のご報告と温度管理システムの導入について>

7月17日 14時から16時にかけて、犬12頭の居た部屋のエアコンが何らかの原因で停止したため室温が上昇し、全頭が熱中症にかかってしまう事故がありました。発見直後から獣医師・看護師・スタッフ総出で治療にあたりましたが、残念ながら9頭が亡くなりました。3頭はその後回復し元気になりました。

原因究明と再発防止のため、スタッフへの聞き取り調査を行いました。人為的ミスの可能性は低いと判断しました。あわせて電気設備の点検を行ったところ、因果関係は不明ですが設備にいくつかの疲弊が発見されたため改修工事を実施しました。また同様の事故を防ぐために温度管理システムの導入を行いました。

亡くなった子たちはスタッフやボランティアさんによく懐いていて、思い入れのある子たちばかりでした。ホームページでも紹介しておりましたので気にして下さる方も沢山いたかと思います。当団体のような施設では、人の手が及ばない感染症や先天的な疾患などで亡くなってしまつて子がいいます。しかし、今回は設備の問題ですので原因が何であれ防ぎ得たはずだと非常に悔しく、亡くなった犬たちにはもちろん、活動を応援して下さい下さる皆様に心よりお詫び申し上げます。また事故直後から犬たちやスタッフに温かいお言葉をかけて下さった皆様にお礼申し上げます。

これからも尽力いたしますので皆様のご支援ご声援をよろしく願いいたします。

NPO 法人犬と猫のためのライフポート
理事長 稲葉友治